

最優秀賞

佐野 叶恵 (さの かなえ) 元八王子東小 3年生

作品名：「ココロ屋」を読んで

図 書：ココロ屋

ココロ屋を読んで、わたしはこの本を、おもしろい本だなと思いました。

なぜかと言うと、ココロ屋さんが出てきて、ふしぎなことにいろいろココロをかえてしまうからです。

ココロ屋さんは、いろいろなココロをあつかっていてココロを入れかえてくれるのです。

ひろきくんはいつも、つついじをはってしまいいじわるをしたり、「ぼくは、わるくない」と思い、きらわれてしまうことがありました。でも「みんなからすかれない」と思い、ココロ屋さんでココロを入れかえてもらおうとしました。

そして、「やさしいココロ」、「すなおなココロ」、「あたたかいココロ」などに、かえてみました。けれど、どれもきよくたんすぎました。

はじめは、それぞれのココロのよいところが出てきてよかったけれど、どれもやさしすぎたり、すなおすぎたり、あたたかすぎたりしました。そして、さいごにはみんなから、きらわれたり、いじわるされたりしたのです。

そんなとき、ココロ屋さんのココロのたなに、ほかのそれぞれのココロより、とてもみりよくてきなココロがありました。それはつやつやのところもあれば、ザラザラのところもあり、ふくらんだところもあれば、とがったところもある、ふくざつなかたちのものでした。

それは、「てんねんのココロ」です。てんねんのココロのいいところは、「ゆうかなココロ」「くじけたココロ」「せっかちなココロ」「強いココロ」「やさしいココロ」「すなおなココロ」「あたたかいココロ」がいりまじっているところです。

そして、ココロ屋さんが、「このてんねんのココロはせいちょうするもの」と教えてくれました。だから、ひろきくんは、自分のてんねんのココロをせいちょうさせたいと思ったのです。

わたしも、姉や妹とけんかをすることがあります。そんなとき、ママやパパにおこられているときに、「わたしはわるくない」といじをはってしまい、あやまることできないことがあります。ほんとうは、すなおにあやまれたらいいなあと思います。

でも、あやまろうかどうしようかこまってしまって、すぐにあやまれないんだと思います。

だから、ココロ屋をよんでいるとちゅうは、「わたしもココロ屋さんに会ってココロをかえてもらえたらいいなあ、もしあえたら、すなおなココロにしてみたい」と思いました。でも今は、「自分のココロがいちばんいい」ということがわかりました。わるいところもいいところもあるのはあたりまえなのです。一つ一つてんねんのココロはせいちょうさせることができるから、「自分のココロをたいせつにせいちょうさせたい」と思いました。